

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 公 開 特 許 公 報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開2017-209254

(P2017-209254A)

(43) 公開日 平成29年11月30日 (2017. 11. 30)

(51) Int.Cl.
A 4 7 G 29/124 (2006.01)F I
A 4 7 G 29/124テーマコード (参考)
3 K 1 0 0

審査請求 未請求 請求項の数 3 O L (全 12 頁)

(21) 出願番号 特願2016-103799 (P2016-103799)
(22) 出願日 平成28年5月25日 (2016. 5. 25)(71) 出願人 000133319
株式会社ダイケン
大阪府大阪市淀川区新高2丁目7番13号
(74) 代理人 110001298
特許業務法人森本国際特許事務所
(72) 発明者 上田 博
大阪府大阪市淀川区新高2丁目7番13号
株式会社ダイケン内
Fターム (参考) 3K100 CA03

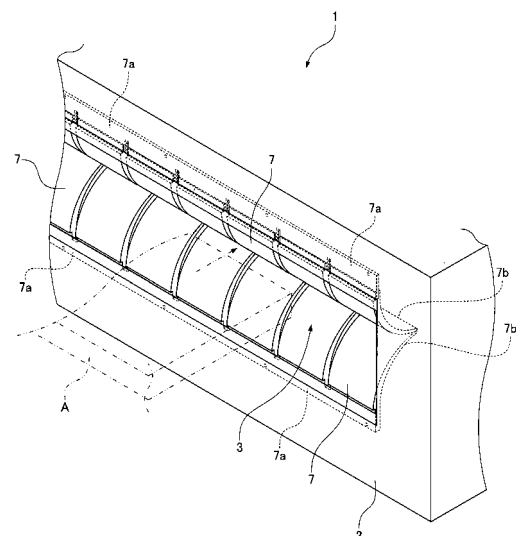
(54) 【発明の名称】 配達物受け箱

(57) 【要約】

【課題】 配達物が投入口から取り出されることを阻止できながら、付勢ばねなどの付勢手段や回転軸を設けなくても済んで、製造コストを低減することが可能な、配達物受け箱を提供する。

【解決手段】 配達物Aを収納する本体2と、この本体2に配達物Aを投入する投入口3と、を備えた配達物受け箱1であって、投入口3の長手方向に対して複数に分割されて並べられ、投入口3を開閉自在な分割開閉片7を有し、分割開閉片7は弾性を有して本体2内部に変形自在とされ、この分割開閉片7の基部7aが本体2の内面における投入口3の周囲に取り付けられている。また、分割開閉片7の基部7aが、本体2の内面における投入口3を挟んで対向する箇所に対となるように取り付けられ、対向する分割開閉片7の先端部7bの外面同士が本体2の内側に弾性変形して合わせられた状態で配設されている。

【選択図】 図1



【特許請求の範囲】

【請求項 1】

配達物を収納する本体と、この本体に配達物を投入する投入口と、を備えた配達物受け箱であって、
投入口の長手方向に対して複数に分割されて並べられ、投入口を開閉自在な分割開閉片を有し、
前記分割開閉片は弾性を有して本体内部に変形自在とされ、この分割開閉片の基部が本体の内面における投入口の周囲に取り付けられ、
分割開閉片の基部が、本体の内面における投入口を挟んで対向する箇所に対となるように取り付けられ、
対向する分割開閉片の先端部の外面同士が本体内部に弾性変形して合わせられた状態で配設されていることを特徴とする配達物受け箱。

10

【請求項 2】

配達物を収納する本体と、この本体に配達物を投入する投入口と、を備えた配達物受け箱であって、
投入口の長手方向に対して複数に分割されて並べられ、投入口を開閉自在な分割開閉片を有し、
前記分割開閉片は弾性を有して本体内部に変形自在とされ、この分割開閉片の基部が本体の内面における投入口の周囲に取り付けられ、
投入口の長手方向に対して隣接する分割開閉片が、本体の内面における投入口を挟んで反対側の箇所に取り付けられ、
分割開閉片の先端部が、本体内部に弾性変形した状態で配設されていることを特徴とする配達物受け箱。

20

【請求項 3】

配達物を収納する本体と、この本体に配達物を投入する投入口と、を備えた配達物受け箱であって、
投入口の長手方向に対して複数に分割されて並べられ、投入口を開閉自在な分割開閉片を有し、
前記分割開閉片は弾性を有して本体内部に変形自在とされ、この分割開閉片の基部が本体の内面における投入口の周囲に取り付けられ、
分割開閉片の基部が、本体の内面における投入口から離れた箇所に取り付けられていることを特徴とする配達物受け箱。

30

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は配達物受け箱に関する。

【背景技術】

【0002】

配達物を投入口から投入できながら、配達物が投入されると、この投入口を通しては取り出し難くなり、配達物の盗難などを防止できる配達物受け箱が特許文献 1 などに開示されている。

40

【0003】

図 19～図 22 に示すように、前記特許文献 1 に開示されている配達物受け箱（前記特許文献 1 では、郵便ポストと記載）80 は、配達物 90 を収納する本体 81 と、この本体 81 に配達物 90 を投入する投入口 82 とを備え、投入口 82 には、回転軸 83 を中心として開閉可能な開閉片 84 が、本体 81 の内側のみ回転自在に支持されている。また、開閉片（フラップ）84 が自重により閉鎖できない向きに配設される場合には、回転軸 83 の周りなどに、開閉片 84 を、投入口 82 の閉鎖方向に付勢する付勢ばね（図示せず）が設けられる。ここで、開閉片 84 は、投入口 82 の長手方向（図 19 における横方向）に

50

対して分割されて一列に並設された複数の小開閉片（小フラップ）８４ a からなり、これに対応して、回転軸８３や付勢ばねが取り付けられる。

【０００４】

この配達物受け箱８０によれば、配達物９０が投入される場合には、図２１に示すように、配達物９０により多数の小開閉片（小フラップ）８４ a が内側に押し込まれ、本体８１の内部への投入が許容される。一方、図２２に示すように、投入口８２から手が差し込まれて配達物９０を取り出そうとされた場合には、配達物９０が小開閉片８４ a の内側から当接して小開閉片８４ a が閉じられる方向に回転するため、配達物９０の取り出しが阻止される。

【先行技術文献】

10

【特許文献】

【０００５】

【特許文献１】特開２００６－１７４８８０号公報

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【０００６】

しかしながら、上記従来構成の配達物受け箱８０では、小開閉片（小フラップ）８４ a がその重力で閉じられない場合には、回転軸８３や付勢ばねの付勢手段が必要となる。また、各小開閉片８４ a には、回転軸８３に係合するような円筒形に加工したり、付勢ばねに対する係止部が必要となったりする必要がある、このために、製造コストが高くなることがある。

20

【０００７】

本発明は上記課題を解決するもので、配達物が投入口から取り出されることを阻止できながら、付勢ばねなどの付勢手段や回転軸を設けなくても済んで、製造コストを低減することが可能な、配達物受け箱を提供することを目的とするものである。

【課題を解決するための手段】

【０００８】

上記課題を解決するために本発明の配達物受け箱の共通構成は、配達物を収納する本体と、この本体に配達物を投入する投入口と、を備えた配達物受け箱であって、投入口の長手方向に対して複数に分割されて並べられ、投入口を開閉自在な分割開閉片を有し、前記分割開閉片は弾性を有して本体内部に変形自在とされ、この分割開閉片の基部が本体の内面における投入口の周囲に取り付けられていることを特徴とする。

30

【０００９】

この構成において、配達物が投入される場合に分割開閉片は、その先端部側などが配達物により押されて、本体内部に弾性変形して配達物の本体内部への投入が許容される。この場合には、分割開閉片は本体に取り付けられている箇所が変形開始点となりながら変形するが、変形開始点から先端部までの変形する部分の寸法が長いため、分割開閉片による抵抗力は比較的小さくなり、配達物を容易に投入することができる。

【００１０】

一方、投入口から手が差し込まれて配達物を取り出そうとされた場合には、配達物が分割開閉片の先端部に当接して、配達物の取り出しが阻止される。また、この場合に、分割開閉片は、本体の内面における投入口に臨む箇所を変形開始点として変形し、変形開始点から先端部までの変形する部分の寸法が短くなるので、分割開閉片による抵抗力が大きくなり、配達物の取出しが効果的に阻止される。

40

【００１１】

また、本発明の配達物受け箱は、分割開閉片の基部が、本体の内面における投入口を挟んで対向する箇所に対となるように取り付けられ、対向する分割開閉片の先端部の外面同士が本体内部に弾性変形して合わせられた状態で配設されていることを特徴とする。

【００１２】

この構成においても、投入口から手が差し込まれて配達物を取り出そうとされた場合に

50

、配達物が分割開閉片の先端部に当接するが、この構成においては、対向する分割開閉片の先端部の外面同士が本体内側に弾性変形して合わせられた状態で配設されているため、これらの分割開閉片の先端部が突っ張り、配達物の取り出しがより効果的に阻止される。

【0013】

また、本発明の配達物受け箱は、投入口の長手方向に対して隣接する分割開閉片が、本体の内面における投入口を挟んで反対側の箇所に取り付けられ、分割開閉片の先端部が、本体内側に弾性変形した状態で配設されていることを特徴とする。この構成によっても、配達物が投入される場合に分割開閉片は、その先端部側などが配達物により押されて、本体内側に弾性変形して配達物の本体内への投入が許容される。一方、投入口から手が差し込まれて配達物を取り出そうとされた場合には、配達物が分割開閉片に当接して、配達物の取り出しが阻止される。

10

【0014】

また、本発明の配達物受け箱は、分割開閉片の基部が、本体の内面における投入口から離れた箇所に取り付けられていることを特徴とする。

【0015】

この構成によれば、配達物が投入される場合に、分割開閉片は本体に取り付けられている箇所から変形するが、この変形する部分がより長いため、分割開閉片による抵抗力が小さくなり、配達物をより容易に投入することができる。一方、投入口から手が差し込まれて配達物を取り出そうとされた場合には、本体の内面における投入口に臨む箇所を変形開始点として変形するが、この際の、変形開始点から先端部までの変形する部分の寸法は、分割開閉片の基部が本体の内面における投入口の近傍に取り付けられている場合と同じであるので、分割開閉片による抵抗力は大きいままであり、配達物の取出しは良好に阻止される。

20

【発明の効果】

【0016】

本発明の配達物受け箱によれば、投入口の長手方向に対して複数に分割されて並べられ、投入口を開閉自在な分割開閉片として、弾性を有して本体内部に変形自在とされているものを用いて、この分割開閉片の基部を本体の内面における投入口の周囲に取り付けることにより、本体内に容易に投入できながら、配達物が投入口から取り出されることを阻止できる。しかも、配達物が投入される場合には、分割開閉片は本体に取り付けられている箇所が変形開始点となって変形する部分の寸法が長いため、配達物を容易に投入することができる。一方、投入口から手が差し込まれて配達物を取り出そうとされた場合には、分割開閉片は、本体の内面における投入口に臨む箇所を変形開始点として変形し、変形開始点から先端部までの変形する部分の寸法が短くなるので、配達物の取出しが効果的に阻止される。

30

【0017】

さらに、本発明の配達物受け箱では、分割開閉片自体が弾性を有して変形自在であるため、付勢ばねなどの付勢手段や回転軸を設けなくても済んで、製造コストを低減することができる。

【0018】

また、本発明の配達物受け箱によれば、分割開閉片の基部を、本体の内面における投入口を挟んで対向する箇所に対となるように取り付け、対向する分割開閉片の先端部の外面同士が本体内側に弾性変形して合わせられた状態で配設することにより、投入口から手が差し込まれて配達物を取り出そうとされた場合に、分割開閉片の先端部が突っ張って配達物の取り出しをより効果的に阻止することができ、信頼性が向上する。

40

【0019】

また、本発明の配達物受け箱によれば、分割開閉片の基部を、本体の内面における投入口から離れた箇所に取り付けることにより、配達物をより容易に投入することができながら、配達物の投入口からの取出しは良好に阻止される。

【図面の簡単な説明】

50

【0020】

【図1】本発明の実施の形態（第1の実施の形態）に係る配達物受け箱を斜め前方より見た斜視図である。

【図2】同配達物受け箱の縦断面図で、配達物が投入されていない状態を示している。

【図3】同配達物受け箱の縦断面図で、配達物が投入されつつある状態および投入されて収納された状態を示している。

【図4】同配達物受け箱の分割開閉片の斜視図である。

【図5】同配達物受け箱の縦断面図で、投入口から配達物が取り出されることが阻止されている状態を示している。

【図6】本発明の他の実施の形態（第2の実施の形態）に係る配達物受け箱の縦断面図で、配達物が投入されていない状態を示している。

10

【図7】同配達物受け箱の縦断面図で、配達物が投入されつつある状態および投入されて収納された状態を示している。

【図8】同配達物受け箱の縦断面図で、投入口から配達物が取り出されることが阻止されている状態を示している。

【図9】同配達物受け箱の分割開閉片の斜視図である。

【図10】同配達物受け箱の分割開閉片の変形例の斜視図である。

【図11】同配達物受け箱の分割開閉片の他の変形例の斜視図である。

【図12】同配達物受け箱の分割開閉片のさらに他の変形例の斜視図である。

【図13】本発明のさらに他の実施の形態（第3の実施の形態）に係る配達物受け箱を斜め前方より見た斜視図である。

20

【図14】同配達物受け箱の縦断面図で、配達物が投入されていない状態を示している。

【図15】同配達物受け箱の縦断面図で、配達物が投入されつつある状態および投入されて収納された状態を示している。

【図16】同配達物受け箱の縦断面図で、投入口から配達物を取り出されることが阻止されている状態を示している。

【図17】本発明のその他の実施の形態に係る配達物受け箱を斜め前方より見た斜視図である。

【図18】本発明のさらに他の実施の形態に係る配達物受け箱を斜め上方より見た斜視図である。

30

【図19】従来の配達物受け箱（郵便ポスト）を斜め前方より見た斜視図である。

【図20】同従来の配達物受け箱の要部縦断面図である。

【図21】同従来の配達物受け箱の斜視図で、配達物を投入している状態を示す。

【図22】同従来の配達物受け箱の斜視図で、配達物を投入口より取り出そうとしている状態を示す。

【発明を実施するための形態】

【0021】

以下、本発明の実施の形態に係る配達物受け箱を図面に基づき説明する。

図1、図2などに示すように、本発明の実施の形態に係る配達物受け箱1は、郵便、小包、宅配物、新聞などの各種の配達物Aを収納する本体2と、この本体2に配達物Aを投入する投入口3と、本体2から配達物Aを取り出すための取出口4と、ダイヤル錠6などの施錠手段を有して取出口4を開閉する（例えば後方に開閉自在とされている）取出用扉5などを備えている。なお、この実施の形態では、配達物受け箱1の本体2は、横（左右）方向および奥行（前後）方向に長い箱形状とされ、投入口3は横（左右）方向に長く形成されている。

40

【0022】

配達物受け箱1は、投入口3を開閉自在な複数の分割開閉片7を有し、これらの分割開閉片7は、投入口3の長手方向である横（左右）方向に対して複数に分割されて（詳しくは、後述するように少なくとも分割開閉片7の基部7a以外の部分が分割されて）並べられている。図3に示すように、分割開閉片7は弾性を有して本体2の内部に変形自在とさ

50

れ、この分割開閉片 7 の基部 7 a が本体 2 の内面における投入口 3 の周囲にねじなどの取付部品 8 で取り付けられている。

【0023】

この実施の形態では、分割開閉片 7 の基部 7 a が、本体 2 の内面における投入口 3 を挟んで上下に対向する箇所に対となるように取り付けられている。そして、対向する分割開閉片 7 の先端部 7 b の外面同士が本体 2 の内側に弾性変形して合わせられた状態で配設されている。また、この実施の形態（第 1 の実施の形態）では、分割開閉片 7 の基部 7 a が、本体 2 の内面における投入口 3 の近傍に取り付けられている。

【0024】

図 2～図 4 などに示すように、分割開閉片 7 には、本体 2 における投入口 3 に臨む周壁面に当接可能な段部 7 c が形成されている。分割開閉片 7 は弾性を有する材料で形成され、樹脂や合成ゴムなどが好適であるが、これに限るものではない。また、この実施の形態では、図 4 に示すように、複数の分割開閉片 7 の基部 7 a 同士は一体化されて形成されている一方、基部 7 a 以外の先端側部分は溝部（スリット）9 により、幅方向に対して分割されている。

【0025】

上記構成において、図 3 に示すように、配達物 A が投入される場合に分割開閉片 7 は、その先端部側が配達物 A により押されて本体 2 の内側にさらに弾性変形し、これにより配達物 A の本体 2 内への投入が許容される。この場合に、分割開閉片 7 は本体 1 に取り付けられている箇所（この実施の形態では取付部品 8 で取り付けられている箇所）が変形開始点となりながら変形するが、変形開始点から先端部までの変形する部分の寸法が比較的に長いため（後述するように、分割開閉片 7 における段部 7 c が設けられている箇所から先端部 7 b までの寸法よりも長い（大きい）ため）、分割開閉片 7 による抵抗力は比較的小さくなり、配達物 A を容易に投入することができる。

【0026】

一方、投入口 3 から手が差し込まれて配達物 A を取り出そうとされた場合には、図 5 に示すように、配達物 A が分割開閉片 7 の先端部 7 b に当接して、配達物 A の取り出しが阻止される。また、この場合に、分割開閉片 7 は、本体 2 の内面における投入口 3 に臨む箇所（この実施の形態では、段部 7 c が設けられている箇所）を変形開始点として変形し、変形開始点から先端部 7 a までの変形する部分の寸法が比較的に短くなるので、分割開閉片 7 による抵抗力が大きくなり、配達物 A の取出しが阻止される。

【0027】

但し、この実施の形態では、分割開閉片 7 の基部 7 a が、本体 2 の内面における投入口 3 の近傍に取り付けられているため、配達物 A が投入される場合での変形開始点である分割開閉片 7 の取付箇所と、分割開閉片 7 の段部 7 c が本体 2 における投入口 3 に臨む周壁面に当接してから変形する変形開始点（段部 7 c が設けられている箇所）との分割開閉片 7 の先端部からの長さの差が少ないため、配達物 A を投入する際の分割開閉片 7 による抵抗力は、あまり小さくならず、配達物 A としてはその厚みが比較的に薄いものが適している。

【0028】

一方で、分割開閉片 7 の基部 7 a の取付箇所から先端部 7 b までの長さが比較的小さい（短い）ため、配達物 A を投入する際に、投入口 3 から本体 2 の内部に完全に収納できるまで押し込むべき寸法を比較的に短くすることができる利点がある。

【0029】

上記構成によれば、分割開閉片 7 自体が弾性を有して変形自在であるため、従来の配達物受け箱のような付勢ばねなどの付勢手段や回転軸を設けなくても済んで、製造コストを低減することが可能となる。

【0030】

また、上記構成によれば、対向する分割開閉片 7 の先端部 7 b の外面同士が本体 2 内側に弾性変形して合わせられた状態で配設されているため、投入口 3 から手が差し込まれて

10

20

30

40

50

配達物 A を取り出そうとされた場合でも、これらの分割開閉片 7 の先端部 7 b が配達物 A に当接して突っ張り、配達物 A の取り出しがより効果的に阻止することができ、配達物受け箱 1 としての信頼性が向上する。

【0031】

また、上記構成によれば、分割開閉片 7 に、本体 2 における投入口 3 に臨む周壁面に当接可能な段部 7 c が形成されているため、投入口 3 から手が差し込まれて配達物 A を取り出そうとされた場合に、分割開閉片 7 の段部 7 c が投入口 3 の周壁面に当接し、配達物 A の取出しがさらに効果的に阻止され、信頼性が一層向上する。

【0032】

また、上記構成によれば、複数の分割開閉片 7 の基部 7 a 同士を一体化して形成し、先端側を分割させている構成であるので、複数の分割開閉片 7 を 1 つの部品で構成することができる。この結果、部品点数を少なくでき、ひいては製造コストや組み付けの手間を削減することができる。

【0033】

図 6、図 7 は本発明の他の実施の形態（第 2 の実施の形態）に係る配達物受け箱 10 を示している。これらの図に示すように、この実施の形態では、分割開閉片 7 の基部 7 a として長いものが用いられ、分割開閉片 7 の基部 7 a が、本体 2 の内面における投入口 3 から離れた箇所に取り付けられている。なお、他の構成要素の構造は、図 1～図 3 などに示す配達物受け箱 1 のものと同様である。

【0034】

この構成によれば、配達物 A が投入される場合に、分割開閉片 7 は取付部品 8 で本体 2 に取り付けられている箇所から変形するが、この変形する部分が長いので、分割開閉片 7 による配達物 A に対する抵抗力が小さくなり、配達物 A をより容易に投入することができる。したがって、配達物 A が例え厚めのものであっても、容易に投入することができる。

【0035】

一方、図 8 に示すように、投入口 3 から手が差し込まれて配達物 A を取り出そうとされた場合には、分割開閉片 7 は、分割開閉片 7 は、本体 2 の内面における投入口 3 に臨む箇所を変形開始点として変形するが、この際の、変形開始点から先端部 7 b までの変形する部分の寸法は、分割開閉片 7 の基部 7 a が本体 2 の内面における投入口 3 の近傍に取り付けられている場合と同じであるので、分割開閉片 7 による抵抗力は大きいままであり、配達物 A の取出しは良好に阻止される。

【0036】

なお、分割開閉片 7 は、図 9 に示すように、分割開閉片 7 全体が同じ材料で一体化されて形成されているとよいが、これに限るものではなく、図 10 に示すように、分割開閉片 7 の基部 7 a を、弾性を有する板ばねなどで構成し、この基部 7 a に、分割開閉片 7 の基部 7 a 以外の部分を別の材料で構成して固定してもよい。なお、図 2、図 3 などに示す前記第 1 の実施の形態の配達物受け箱 1 の各分割開閉片 7 についても、基部 7 a と、それ以外の部分とを別の材料で構成して固定してもよい。

【0037】

また、分割開閉片 7 は、分割開閉片 7 の基部 7 a が必ずしも一体化されて形成されていなくてもよく、図 11、図 12 に示すように、各分割開閉片 7 をそれぞれ個別に形成して、本体 2 に取付けてもよい。なお、図 2、図 3 などに示す前記第 1 の実施の形態の配達物受け箱 1 の各分割開閉片 7 についても同様である。

【0038】

図 13、図 14 は本発明のさらに他の実施の形態（第 3 の実施の形態）に係る配達物受け箱 20 を示している。これらの図に示すように、この実施の形態では、投入口 3 の長手方向（横方向）に対して隣接する分割開閉片 21 が、本体 2 の内面における投入口 3 を挟んで反対側の箇所に取り付けられている。すなわち、上記実施の形態では、何れも分割開閉片 21 が、上下に対となつて、つまり 2 つずつ設けられていたが、この実施の形態では、分割開閉片 21 が、上下方向に対しては 1 つしか設けられておらず、長手方向（横方向

10

20

30

40

50

）に隣接する分割開閉片 2 1 が上下方向に対して逆の向きに（互い違いに）取り付けられている。また、分割開閉片 2 1 の先端部 2 1 b が、本体 2 内側に弾性変形した状態で配設されている。なお、2 1 a は分割開閉片 2 1 の基部で、この分割開閉片 2 1 の基部 2 1 a で、本体 2 の内面に取り付けられている。

【0039】

したがって、分割開閉片 2 1 は、上記実施の形態よりも上下方向に対して長いものが用いられている。また、図 1 3、図 1 4 に示す実施の形態では、分割開閉片 2 1 の基部 2 1 a として上下方向に長いものが用いられ、分割開閉片 2 1 の基部 2 1 a が、本体 2 の内面における投入口 3 から離れた箇所に取り付けられている場合を示しているが、これに限るものではなく、分割開閉片 2 1 の基部 2 1 a として短いものを用いて、分割開閉片 2 1 の基部 2 1 a を、本体 2 の内面における投入口 3 の近傍箇所に取り付けてもよい。なお、この実施の形態では、分割開閉片 2 1 が基部 2 1 a も含めてそれぞれ個別に分離されて本体 2 に取り付けられている場合を示しているが、これに限るものではなく、例えば、基部 2 1 a が上端部にある分割開閉片 2 1 の基部 2 1 a については一体化させて形成してもよい。

10

【0040】

この構成によっても、図 1 5 に示すように、配達物 A が投入される場合に分割開閉片 7 は、その先端部側などが配達物 A により押されて、本体 2 内側に弾性変形して配達物 A の本体 2 内への投入が許容される。一方、投入口から手が差し込まれて配達物を取り出そうとされた場合には、図 1 6 に示すように、配達物 A が分割開閉片 7 に当接して、配達物 A の取り出しが阻止される。

20

【0041】

なお、上記の実施の形態においては、何れも左右に長い投入口 3 が前方向に向けて配設されており、これに対応して分割開閉片 7 を、投入口 3 の長手方向である左右方向に対して複数に分割させて並べている場合を述べた。しかしが、これに限るものではなく、図 1 7 に示すように、上下に長い投入口 3 を前方向に向けて配設し、これに対応して分割開閉片 7 を、投入口 3 の長手方向である上下方向に対して複数に分割させて並べて配達物受け箱 3 0 を構成してもよい。また、図 1 8 に示すように、横方向に長い投入口 3 を上方向に向けて配設し、これに対応して分割開閉片 7 を、投入口 3 の長手方向である横方向に対して複数に分割させて並べて配達物受け箱 4 0 を構成してもよい。また、このような構造の配達物受け箱を複数並べて配設してもよいことはもちろんである。

30

【0042】

そして、本発明の実施の形態では、このように配達物受け箱の配設する姿勢の変更などがあっても、付勢ばねなどの付勢手段を設けなくても済む利点を有する。すなわち、従来の配達物受け箱では、その配達物受け箱の配設する姿勢によっては、本実施の形態の分割開閉片 7 に相当する小開閉片がその重力によっては閉じられない状態となるため、この場合には付勢ばねなどの付勢手段が別途に必要となり、ひいては製造コストの増加を招いてしまう。これに対して、本発明の実施の形態では、分割開閉片 7 の弾性力を利用して投入口 3 を閉鎖する構成のため、別途に付勢ばねなどの付勢手段を設ける必要が無く、ひいては製造コストを抑えることが可能となる。

40

【符号の説明】

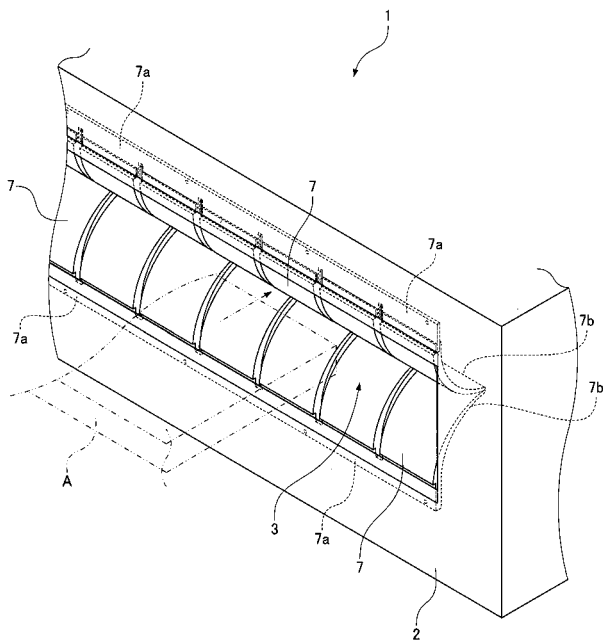
【0043】

- 1、10、20、30、40 配達物受け箱
- 2 本体
- 3 投入口
- 4 取出口
- 7 分割開閉片
- 7 a 基部
- 7 b 先端部
- 7 c 段部

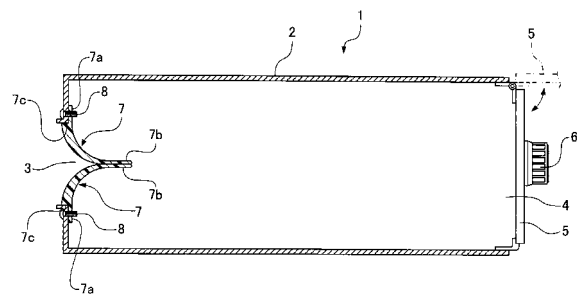
50

- 8 取付部品
 9 溝部（スリット）
 A 配達物

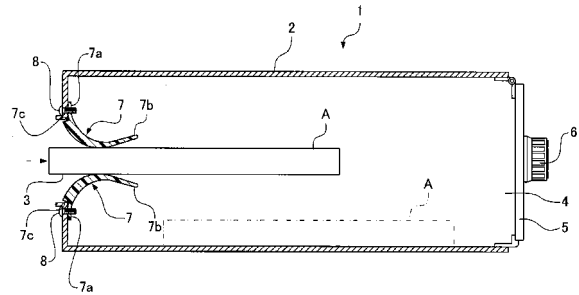
【図 1】



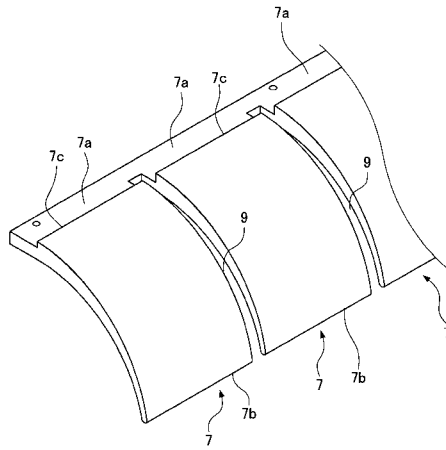
【図 2】



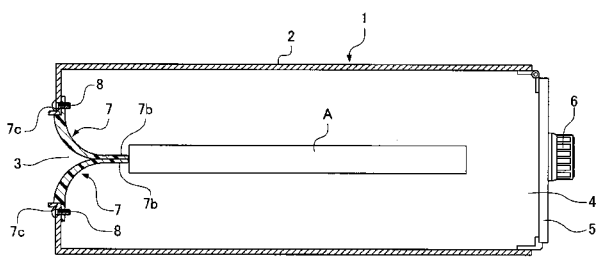
【図 3】



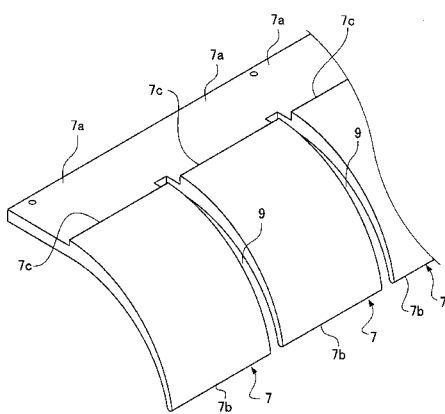
【図 4】



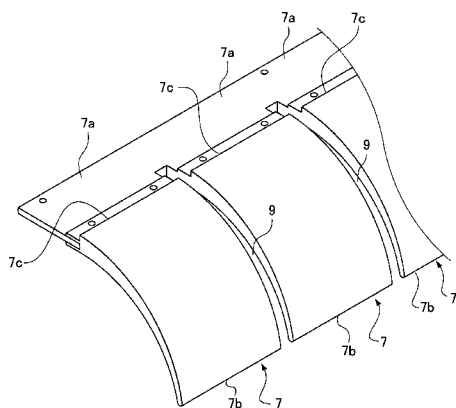
【図 5】



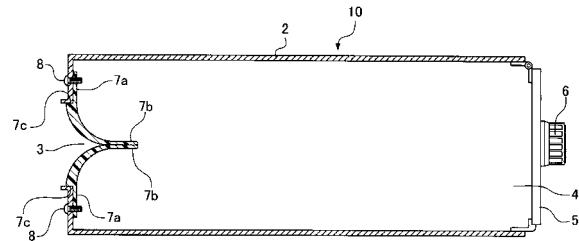
【図 9】



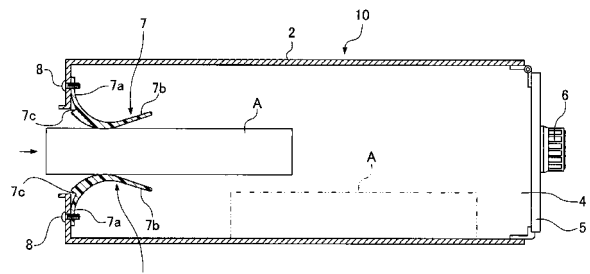
【図 10】



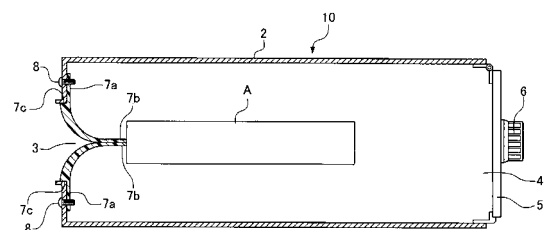
【図 6】



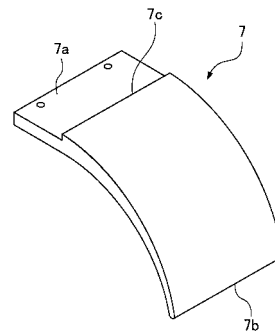
【図 7】



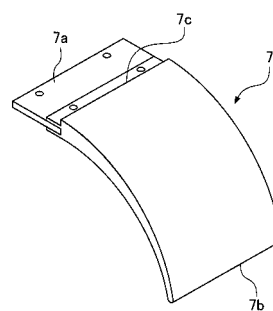
【図 8】



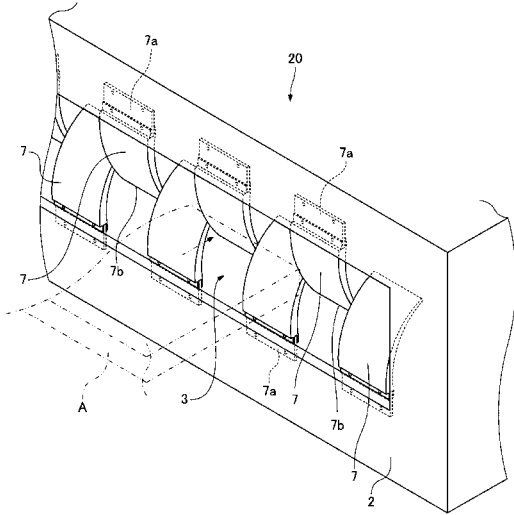
【図 11】



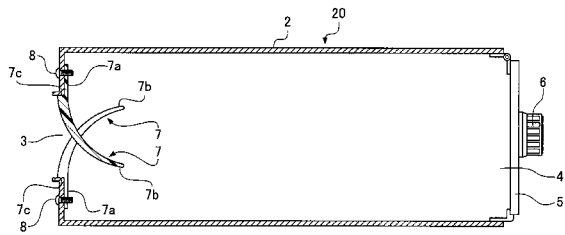
【図 12】



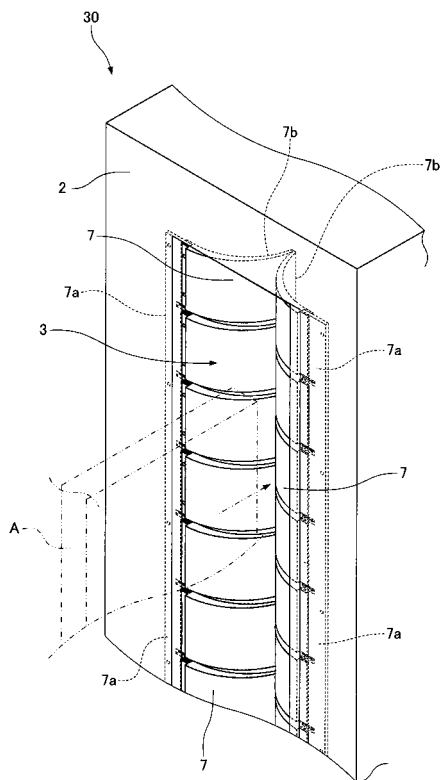
【図 13】



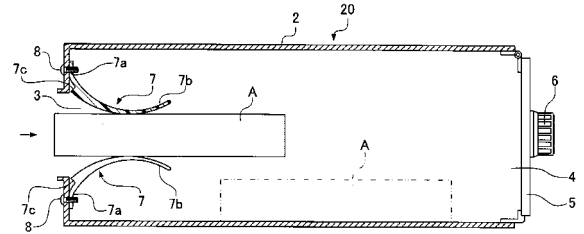
【図 14】



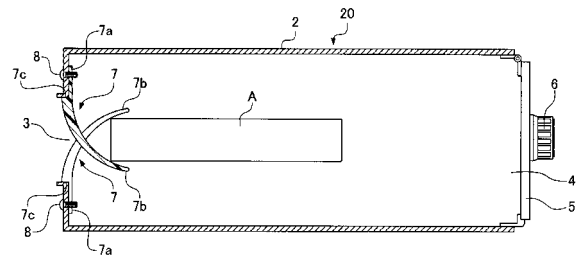
【図 17】



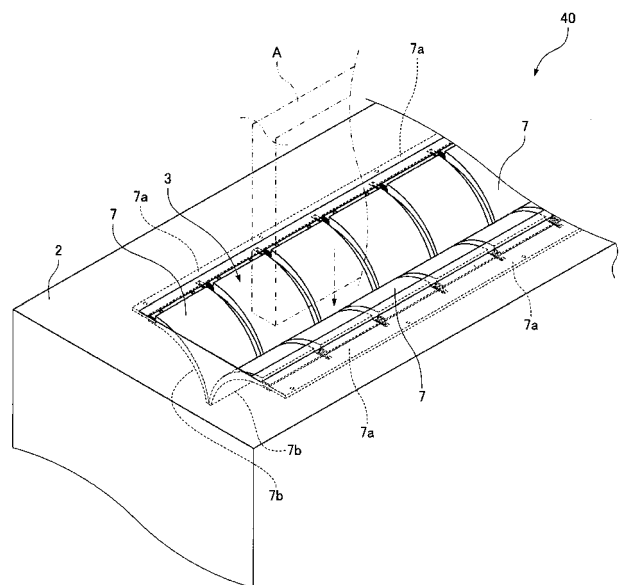
【図 15】



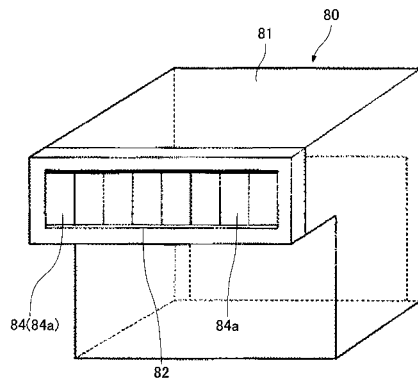
【図 16】



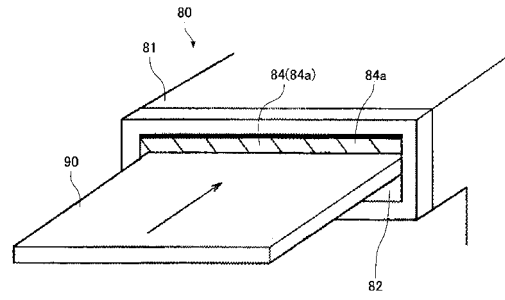
【図 18】



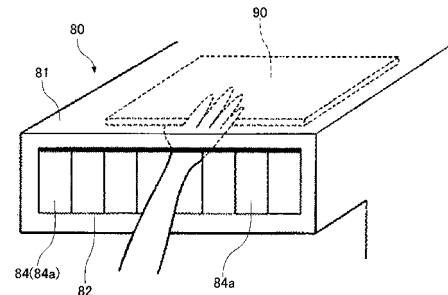
【図 19】



【図 21】



【図 22】



【図 20】

